

令和3年度 清見小学校学校経営全体構想

【高山市学校教育の方針と重点】

＜教育の方針＞

郷土高山に根ざし、未来を切り開くための
資質・能力を育む

＜教育の重点＞

挑戦し続けるたくましさの育成

達成感と貢献感を積み重ねることが挑戦するエネルギーになる

授業づくり：主体的・対話的で深い学びを実現
する

生活づくり：なりたい自分に向かい、失敗を恐れ
ず挑戦する

郷土教育の推進

教育機器の活用

【学校課題】

- ・人権教育を核として「一人一人が宝物」の意識をもち、命や多様性を大切に
する。
- ・ICTを活用しながら、個が主体となる学びを推進し、「確かな学力」
「最後までやり抜く力」を育成する。
- ・地域との連携を大切にしたい人権教育、防災教育、ふるさと教育を推進す
る。学校運営協議会と連携する。
- ・保護者や外部組織と連携して、特別に支援の必要な児童の支援を充実
させる。

【学校教育目標】

元気 強い子 清見の子

〈進んで学ぶ子 なかよくやりぬく子 じょうぶで明るい子〉

◇育成したい資質・能力

課題解決に向けてたくましく試行錯誤し、解決方法を導き出す力

◇指導の重点

**一人一人 目標に向かって たくましく取り組み
自分なりの解決方法を導き出す「真に強い子」の育成**

◇教育活動の中で大切にすること

- ① 課題解決に粘り強く取り組み、自分なりの解決方法を見つけることができる「個が主体となる授業」の推進
 - ・教科指導における人権教育4つの力の育成
(確かな学力、科学的・合理的な見方考え方、豊かな心、最後までやり抜く力)
 - ・児童が、今日は何をどのように学習するのか見通しが持てる授業の確立(算数の授業研究)
 - ・予習(見通し)→授業で理解→復習という学習の流れの定着(学習タイム、家庭学習見届け週間)
 - ・ICTのより効果的な活用(電子黒板、電子教科書、タブレット)
- ② 「一人一人が宝物」の意識を大切に、めざす自分(真に強い子)に向かって取り組み、貢献感や達成感を感じることができる生活づくりの推進
 - ・「真に強い子カード」を活用して、自分のよさや頑張りの可視化
 - ・計画的な対話活動と評価活動の設定(対話を重視し、自分のよさや居場所の確認)
- ③ 児童・保護者の安心・安全を最優先にした健康・安全づくりの推進
 - ・コロナ感染防止の徹底と新しい生活習慣の定着
 - ・自分の健康や安全について、主体的に考え行動できるような取り組み
(眠育、生活リズム調査、防災学習)
 - ・まちづくり協議会、学校運営協議会との連携した防災教育の推進
- ④ 特別な支援を必要とする児童への支援方法や指導力の向上
 - ・特別な支援を必要とする児童(特別支援、アレルギー)への支援方法の研修
 - ・よりよい支援のための保護者との懇談や外部機関との連携の充実
 - ・通常クラスにいる「困り感を持った児童」に対するよりよい支援の充実(外部機関との連携)
- ⑤ 地域との連携を大切にしたい人権教育、ふるさと教育の推進
 - ・人権教育を核として、学校運営協議会の活動を推進する。(タウンミーティング等)
 - ・地域資源を活用したふるさと教育を推進する。総合的な学習の時間を中心とした教科横断的指導
 - ・保育園と中学校のめざす姿を共有し、つながりのある教育を行う。